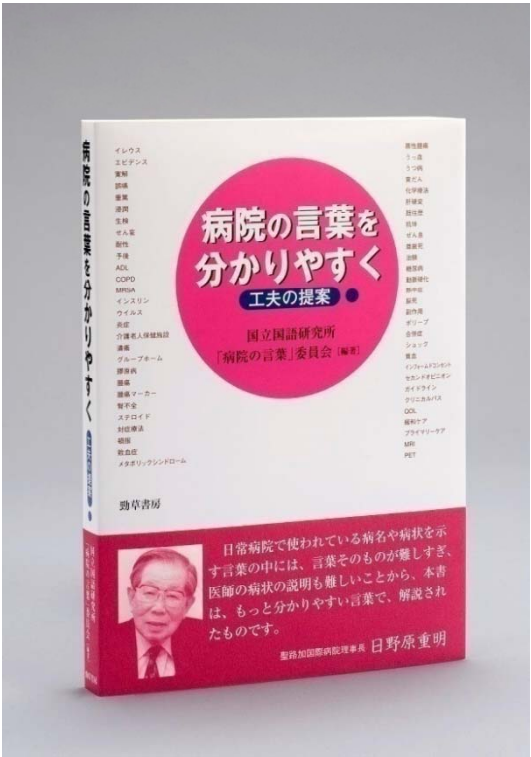


2010年2月24日

第1回産業日本語研究会・シンポジウム

病院の言葉を分かりやすくする提案

田中牧郎(国立国語研究所)



病院で使われている言葉を分かりやすく言い換えた「説明したりする具体的な工夫について提案します。」

Google 検索 RSS

● 国立国語研究所 ● サイトマップ ● お問い合わせ

「病院の言葉」を分かりやすくする提案

「病院の言葉」を分かりやすくする提案 中間報告

この活動について

トップページ > 提案 > III 類型別の工夫例 > 提案した語の一覧 > 22. 腫瘍(しゅよう)マーカー

22. 腫瘍(しゅよう)マーカー

(Ⅱ類型B-(1)) 正しい意味を明確に説明する

まずこれだけは

がんがあるかどうかの目安になる検査の値

少し詳しく

「がんがあるかどうかの目安になる検査の値です。がんがあると、健康なときには見られない物質が血の中に見られます。その物質があるかないか、増えているかないかで、がんがあるかどうかの目安になるわけです。数値が高いときには、別の検査に進む目安となります。」

時間をかけてじっくりと

「がん細胞の表面には、正常の細胞では見当たらない物質があり、はがれて血液の中に流れ込みます。血液を調べてそれが見つかれば、がんにかかっていることが分かるわけです。がんの種類によってその物質は異なっており、それぞれの目安となる値が決められています。この

提案(中間報告)
「病院の言葉」を分かりやすくする提案

- I. 「病院の言葉」を分かりやすくする提案を行う目的
- II. 「病院の言葉」を分かりやすくする工夫の類型
- III. 類型別の工夫例
- IV. 検討の経過
- V. 資料
- 提案に取り上げた語の一覧(複合語・関連語を含む索引)

提案(中間報告)印刷用PDF

委員会
国立国語研究所「病院の言葉」委員会

- 設立趣意書
- 委員名簿
- 議事要旨

「病院の言葉」を分かりやすくする提案

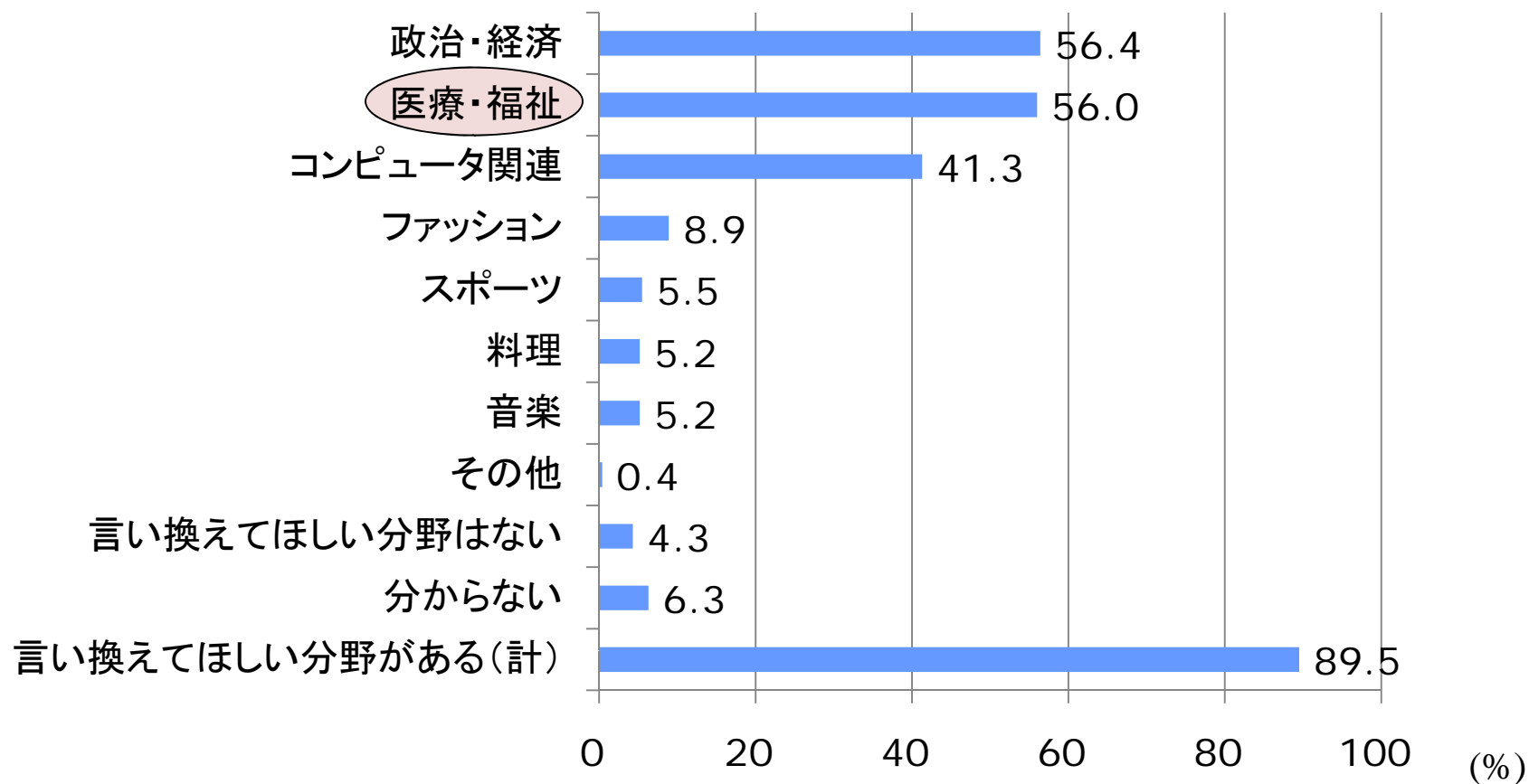
- 国立国語研究所「病院の言葉」委員会
(2007年10月～2009年3月)
(委員長:杉戸清樹所長(当時),言葉の専門家と医療の専門家24名で構成)
- 患者にとって重要でありながら分かりにくい言葉を,分かりやすくする工夫を,医療者に対して提案した
- 「病院の言葉」が伝わらない原因を探り,原因に応じた工夫を,類型にまとめた
- 各類型を代表できる用語,57語について,分かりやすく伝える工夫の事例を示した
- 成果物は書籍『病院の言葉を分かりやすく』(勁草書房)と,ウェブサイトで公開した

活動を始めた経緯

- 国立国語研究所では、国民にとって重要でありながら分かりにくい用語を、分かりやすくする提案を実施してきた
 - 「外来語」言い換え提案(2002年～2006年)の効果と限界
- 分かりにくい用語の多くは、各分野の専門用語
- 専門用語を分かりやすくするには、各分野の専門家が本気になる必要がある
- 分野別に、その分野の専門家と協力して活動を展開するのが望ましい
- 自己判断・自己決定が求められる社会への変容により、専門用語を平易に伝える重要性が増大
- 日本弁護士連合会「法廷用語の日常語化」プロジェクトチーム(酒井弁護士の本日の御講演)の経験

外来語を言い換えてほしい分野

—国民4,500人を対象とした面接調査【複数回答】—

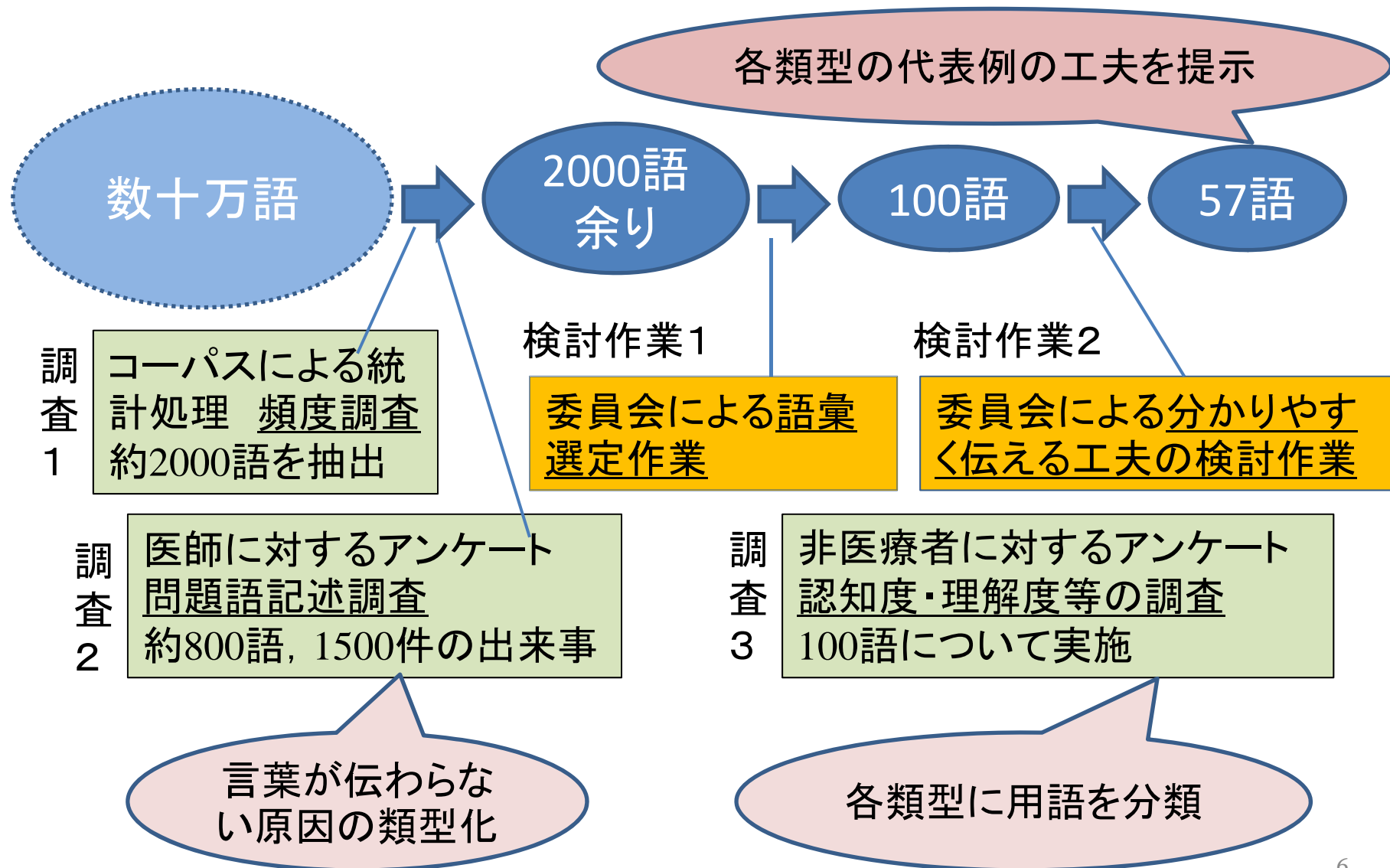


国立国語研究所(2004)『外来語に関する意識調査(全国調査)』

医療現場の問題

- 「患者中心の医療」の広まり
- 医療者は説明をして、患者の同意を得なければならない(医療法に明記)
- 患者は、説明を理解し納得した上で、自ら医療を選ぶことが求められる
- 説明は行われるようになったが(同意は取られるようになったが)、患者の理解と納得は十分得られていない
- 説明の用語が分かりにくいことが、患者の理解と判断の障害になっている
- 用語そのものと、その使い方にも問題があり、改善が望まれる

調査と検討作業の手順



言葉が伝わらない原因の類型化

調査2 医師に対する問題語記述調査 (インターネットによる調査)

質問文

- 問1: あなたや同僚が患者やその家族とコミュニケーションする際に、**理解してもらうことが難しいと感じたことがある言葉**を、一つあげてください。
- 問2: **そのときのできごと**について、できるだけ具体的にお書きください。
- 問3: その言葉について、あなたが、**何か注意していること、工夫していること**があったら、自由にお書きください。また、その理由についてもお書きください。

回収結果

364人から、約800語、約1500件の回答があった。

医師の書き込みの分析による 言葉が伝わらない原因の類型化

- ① 患者に言葉が知られていない
 - 手術で取った臓器を病理検査して調べた際、患者は「病理」という言葉が分からなかったようだ。
- ② 患者の理解が不確か
 - 炎症が起こっているというのは便利な言い方で何となく分かった気にさせるが、炎症のしくみを短時間で分かってもらうのは大変難しい。
- ③ 患者に心理的負担がある
 - 卵巣に腫瘍があり、画像検査では良性と考えられたが、「腫瘍＝がん」という思い込みがあり、患者は落ち込んでしまった。

各類型への用語の分類

調査3 非医療者に対する認知度・理解度等の調査（インターネットによる調査）

問1. あなたは、「ウイルス」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。
a ある b ない → 「ある」と回答した人の比率＝「認知率」

[問1で、aと回答した人に]

問2. あなたは、病院で使われる「ウイルス」という言葉が、「細菌より小さく、電子顕微鏡でないと見えない病原体」という意味であることを、知っていましたか。
a 知っていた b 知らなかった
→ 「知っていた」と回答した人の比率＝「理解率」

[問1で、aと回答した人に]

問3. 次にあげるのは、「ウイルス」についての、ありがちな誤解や偏見、不正確な理解です。これらのうち、あなたがそのように理解していたものすべてを選んでください。（今はそのように理解していなくても、過去にそのように理解していたことがあれば、すべて選んでください）
a ウイルスには、抗生剤がよく効く b 細菌と同じものである ほか
→ それぞれを選択した人の比率＝「誤解率」

回収結果 全国20歳以上の男女4276人の回答をもとに数値化。

① 患者に言葉が知られていない 認知率が低い用語

用語	認知率
EBM	8.7%
クリニカルパス	8.9%
COPD	10.2%
集学的治療	10.4%
イレウス	12.5%
寛解	13.9%
QOL	15.9%
ターミナルケア	32.7%
MRSA	33.3%

② 患者の理解が不確か

(1) 認知率と理解率の差が大きい用語

用語	認知率	理解率	差
ショック	94.4%	43.4%	51.0
ステロイド	93.8%	44.1%	49.7
川崎病	79.3%	31.1%	48.2
膠原病	82.1%	39.3%	42.8
頓服	82.6%	46.9%	35.7
ウイルス	99.7%	64.6%	35.1
ガイドライン	89.6%	57.0%	32.6
敗血症	70.1%	38.0%	32.1
PET	61.0%	33.1%	27.9
潰瘍	97.4%	73.8%	23.6

② 患者の理解が不確か

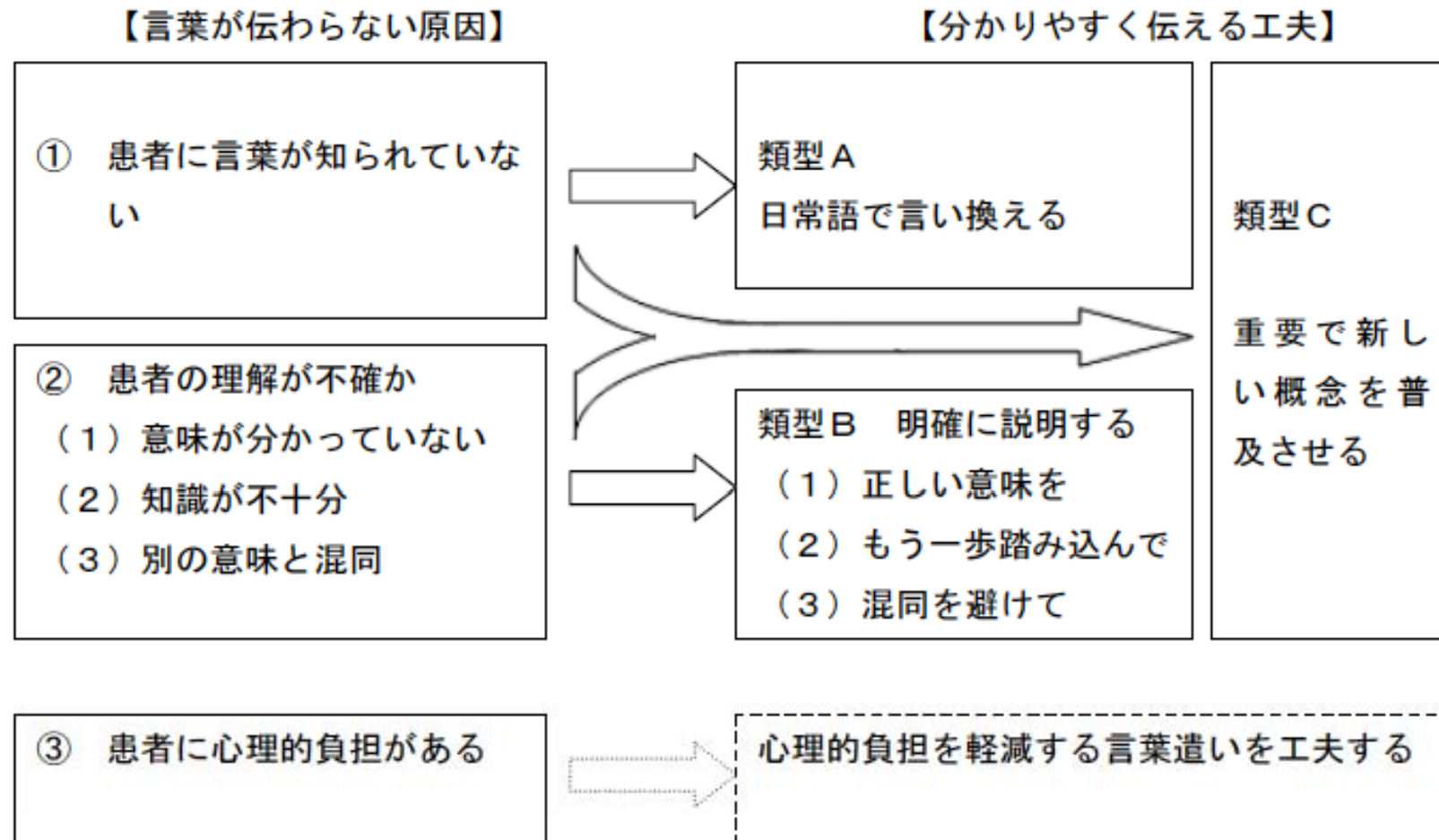
(2) 認知率と理解率の差が小さい用語の中にも、知識が不十分なものがあるのではないか

用語	認知率	理解率	差
肝硬変	97.1%	87.3%	9.8
治験	68.6%	63.0%	5.6
動脈硬化	97.2%	92.8%	4.4

(3) 言葉の意味の混同や混乱が多い言葉

用語	誤解	誤解率
貧血	急に立ち上がったときに立ちくらみを起こしたり、長時間立っていたときにめまいがすること	67.6%
ショック	急な刺激を受けること	46.5%
川崎病	川崎市周辺で発生した公害病である	35.0%

原因に対応した工夫の類型



類型A: 日常語で言い換える

認知率が低く一般に知られていない



できるだけ使わないようにし、
日常語を使って言い換えることが望まれる

イレウス, エビデンス, 寛解, 誤嚥, 重篤, 浸潤,
生検, せん妄, 耐性, 予後, ADL, COPD, MRSA

語別の工夫例 重篤 [類型A]

まずこれだけは 病状が非常に重いこと

言葉遣いのポイント

1. 一般の人には知られていない言葉(認知率50.3%)であるのに、患者に対してこの言葉を使う医療者は多い(医師65.7%, 看護師・薬剤師29.9%)。別の言葉で十分言い表すことができる意味であるので、「重篤」という言葉は患者には使わないようにしたい。(省略)

ここに注意

1. 類義の言葉に、「重症」「重体」「危篤」などがあるが、それらとの使い分けもあいまいで分かりにくい。命の危険があることを伝えたい場合は、「重篤」という言葉を使うのは避け、その旨をはっきりと伝えた方がよい。

類型B(1): 正しい意味を明確に説明する

認知率は高く一般に知られているが、
理解率との差が大きく、理解されていない言葉



正しい意味が理解できるように、
明確に説明する必要がある

インスリン, ウイルス, 炎症, 介護老人保健施設,
潰瘍, グループホーム, 膠原病, 腫瘍, 腫瘍マーカー,
腎不全, ステロイド, 対症療法, 頓服, 敗血症,
メタボリックシンドローム

語別の工夫例 頓服(とんぷく) [類型B(1)]

まずこれだけは 症状が出たときに薬を飲むこと

少し詳しく 「食後など決まった時間ではなく、発作時や症状のひどいときなどに薬を飲むことです」

時間をかけてじっくりと

「一日一回とか毎食後とか、決められたときに薬を飲むのではなく、症状が出て必要になったときに薬を飲むことです。『頓服薬』と言うのは、そのようにして飲む薬のことです」

こんな誤解がある

1. 鎮痛剤(痛み止め)のことだという誤解(34.1%)や、解熱剤(熱冷まし)のことだという誤解(33.4%)が多い。これらは、「頓服」として処方された薬を、そのときの症状に効く薬だと思い込んでしまうことによる誤解である。
2. 包装紙にくるんだ薬のことだという誤解もある(16.2%)。これは、処方された薬の形状によるもので、ほかに、粉薬だとか、座薬だとかいう様々な誤解がある。

類型C: 重要で新しい概念を普及させる

認知率が低かったり，理解率が低かったりする言葉の中には，新しく登場した重要な概念を表し，今後普及が期待されるものがある



重要で新しい概念を普及させる工夫が望まれる

インフォームドコンセント，セカンドオピニオン，ガイドライン，クリニカルパス，QOL，緩和ケア，プライマリーケア，MRI，PET

語別の工夫例 QOL [類型C]

医療が必要とされるのは、それまでには当たり前に行っていたその人の生活ができなくなったときです。医療を受ける動機を、患者の生活の視点で見つめることができる概念として、普及が望まれます。

まずこれだけは

その人がこれでいいと思えるような生活の質
その人がこれでいいと思えるような生活の質を維持しようとする考え方

少し詳しく

「不快に感じることを最大限に軽減し、できるだけその人がこれでいいと思えるような生活が送れるようにすることを目指した、医療の考え方のことです。」

提案への反響と課題

- 医療者へのアンケート(回答数約900件)
 - 「非常に参考になる」53%, 「ある程度参考になる」44%
 - 医療者と患者との言葉のギャップの大きさに驚いた
 - 患者への説明の参考にしたい, 研修や教育に使いたい
 - 患者も知る意欲を持ってほしい
- 活動を終えて
 - 反響は予想以上で, 医療界に歓迎された
 - 提案は考え方の枠組みと事例を示すもの 医療者による応用があってはじめて役に立つ
 - 委員会(言葉の専門家と医療の専門家)の議論は白熱した
 - 調査データをもとに議論できたことで, 意見がまとまった
 - 調査方法と検討手順は, 医療以外の重要分野への応用が期待される
 - 言語研究と各専門分野との連携の可能性を感じた